

日本政治の危機 フランスなら最大与党 解党・政界再編レベル

在仏コラムニスト 安部 雅延



政治不信極まれり

日本は過去最悪の政治不信に見舞われている。政治不信は言うまでもなく自民党に巣くう根深い悪習の露呈だが、それを責める野党も政権を任せたいと思わせる内容がない。一言で言えば日本の民主政治の前代未聞の危機といえるものだ。

政治と金の問題は金を配る政治家、受け取る政治家、金で動く企業や有権者がいるわけで、危機をチャンスに変える指導者を選ぶ有権者にも問題があると見るべきだろう。政治家は国民の鏡なわけだから、政治家を見て国民の体たらくを嘆くべきだ。

故安倍晋三氏の父、晋太郎氏に筆者が編集者時代、外務大臣室で会った時、彼は「自民党は派閥の抗争に明け暮れてきた。私はそれをなくしたい」と私の目の前で言ったことを今でも覚えている。どの国も権力闘争はあるし、個人より集団の方がパワフルだし、徒党を組む現象もあるが、政治目標を忘れれば元も子もない話だ。

日本人の最大の弱点の1つは手段が目的化すること。群れる日本文化

は簡単には変わらないだろうが、目的と目標をリセットし共有することは今でもできる。日本の政治家は優秀な官僚が存在するため、官僚的政治家や、官僚に丸投げする無能政治家が多い。元来、政治家は日本の方向を意思決定するのが仕事のはずだ。

官僚は所詮、政策を具体化する手段を考えるのが仕事で、一方、政治家は国民の代表として有権者の思いを政治に反映させ、政策を立て優先順位を定めて方針を決める仕事だ。そのための法整備を行う立法府の仕事を担っている。

ある知人政治家は政界に入ってから、実力を持つ先輩政治家や官僚を見て委縮し、ひたすら大臣席を得るために所属派閥の長の顔色を伺い、党内の空気を読むだけの政治家になった姿を見てきた。

それはともかく、自民党の危機は日本の危機であるのは間違いない事実。岸田総裁が今こそ自民党をぶっ壊し生まれ変わらせるチャンスと決断し、様々な悪習を絶ち切ることができれば歴史に名を残すだろう。

そのためには手段が目的化し、責任の所在さえ分からなくなった今の

状態をぬけだすために、筆者の個人的意見としては、いったん自民党を解党するのが最善の策だと考えている。例えば改憲自由党など。

長年、参議院の事務方で仕事をした友人は「政界再編するような指導者はいない」と冷めた目で見ていて、私はそうは思わない。大物が動いて皆がついていくスタイルさえも古い権威主義の文化だ。

要は目的と目標を共有できる集団を再結成するだけで、自民党という権力で利権を得ようとするような低レベルの政治家や支持者を排除することだ。戦後を引きずらない新たな政党を再結成する方が整理は簡単だ。

立憲民主党が未だに支持率が低迷しているのは、民主時代から旧社会党系などの左派党員と中道の寄り合い所帯だからだ。旧社会党出身者は不人気の社民党を見捨て立憲民主党に移動しても、反権力の中身は変わらない。中道左派というなら、極端な左派は切り捨てないと国民の理解は得られない。

ついでに新しい党は日米関係を維持しながらも、米国に媚び、米国の顔色を伺う戦後の悪習は捨てるべき

だし、防衛を含む独立主権国家を目指すべきだ。さらに日米地位協定を見直し、国連の敵国条項を削除させる政策を打ち出すべきだ。

「寄らば大樹の影」「出る杭は打たれる」は、日本が誇る慣習でも精神でもない。本来の高貴な保守主義を復活させるべきだろう。

フランスの政党・政界再編

では筆者が30年以上見てきたフランスはどうか。フランスは英国と異なり大革命を起こして共和国になり、近代市民社会を形成し、民主主義を成熟させてきた。他の西洋諸国同様、民主主義を勝ち取った歴史を持つと同時に、きわめて現実的だ。

時代と合わなくなった政党は自ら

解体し、変えるだけだ。大統領制と議院内閣制の違いはあるが、30代だったマクロン現大統領は自ら政党を作り、国会議員経験なしで2017年の大統領選で国民の信を問うて大統領になった。

英仏独の政治を30年以上見てきて、例えば政権交代した時の人事や政策実行の速さが目立つ。いつ政権をとっても翌日には適切な人事を行い、しっかり政策を打ち出し、実行に移す実力を蓄えているという点では英仏独ともに共通している。

日本も1度だけ政権交代し、民主党政権ができたが、官僚の仕事を奪うだけで政治家としての仕事ができなかった。

ドゴール主義の継承者シラク氏が

自民党

1976年に立ち上げた保守政党の共和国連合は、2002年に保守中道政党の国民運動連合に生まれ変わり、2015年には共和党に改編された。その都度、時代の変化に合わせて、新たな政策を掲げて解党と結党を繰り返してきた。理由は時代に合った政策を実行す

るためだった。

30年前、フランスの政治アナリストたちは冷戦終結とともに右派・左派の対立構図は陳腐化し、中道政治が始まったと分析した。結果的に右派・左派はマクロン中道政権に吸収された。残りは極左の不服従のフランス党や共産党、極右だった国民連合など小党が残る結果となった。

政界再編は、与党だけでなく、野党にも必要だ。政権交代を起こすために定めた今の日本の選挙制度では政権交代は起きないし、有能な政治指導者も生めないことが分かった。信念を持ちブレない政治家を生むための選挙制度改正も必要だろう。

さらに日本人の得意な組織の隠ぺい体質を改め、透明性を高めることや国民の政治意識の変革も必要だ。政治とは一定の圧力団体によって動くという考えを変える必要がある。さらに国民の政治参加意識を高めるためのあらゆる努力をすべきだ。

今回の政治と金の問題で露呈した政党内で発生している認識のズレは、今注目されている「識学」で言えば、目標、ルール、自分や党の位置、国益、結果、成長を1つの事として全員が

共有する組織が必要だ。そのためには政権交代より先に自民党を解散し、今の時代に合致した政党を立ち上げることを優先すべきだろう。

グローバル化やIT化が進む一方で、権威主義の国の台頭で先が見通せなくなり、変化と複雑な事象を解析することが求められる時代に差し掛かっている。今の自民党は共有すべき保守思想も政策もないように見える。これでは組織に一体感を生むことは不可能だ。

フランスの例が直接参考になるとは言えないが、私個人は明治維新は半分成功、半分失敗と見ている。富国強兵の強兵と覇権主義に走った失敗は敗戦に繋がった。視野の狭さ、民族主義が国を暴走させたのは大きな誤りだ。日本の伝統文化の何を残し、何を变えるかの十分な検証なしに米追随を戦後続けてしまった。

新たな保守は、そのような過去の反省の上に立ち、主権国家の何たるかを徹底して考え抜いた保守政党を作るべきだろう。それを実行できるのは、トップの英断しかないはずだ。衰退する日本を見たい日本人は誰もいない。